



～3日目～

いよいよ最後の1日です。この日は操縦室の見学の後、それぞれの夢を応援する研修、自分の大切な人に感謝のメッセージを書く研修が行われました。御前崎港に着岸した船内では最後に得札式が行われ、2日目に子供達が作った封筒は運営スタッフによって一つの巨大な船となり、子供達に披露され、歓声があがっていました。下船の際、子供達は「ありがとうございました」と笑顔で元気に挨拶していました。実行委員会が伝えたかったことは子供達に確かに伝わったことでしょう。その後バスでアクティビティ展示イベントホールに移動後、閉船式が行われ、2泊3日の全日程を無事終了しました。



役員へのインタビュー

E-5 浮田小織さん
船は何回目ですか？ 初めて乗りました。
楽しかったことは？ 船で友達になった子と部屋でお菓子パーティーをやったことや友達の涙という研修で仲間と力を合わせてゲームをしたことです。また来年も乗りたいです。

F-4 深津健太朗くん
船は何回目ですか？ 初めて乗りました。
つらかったことは？ 最初の日は寝れなくて吐き気がつきました。
楽しかったことは？ 研修でやったシッパとりゲームやたくさん友達が出来たことが楽しかったです。船の中で出るご飯もおいしくてデッキランチはとても楽しかったです。また来年も乗りたいです。

保護者の方からのお手紙

豊目美幸さん
少年の船では大変お世話になりました。おかげさまで大変楽しい思い出が出来たようです。
実は出発の当日、私の入院手術が決まっておまして、見送りの出立も主人が夢みました。息子は自分で身支度も出来、念のため用意したお祝い止め紙を持つことで気持ちも楽になったのか、揺れる船の中でも、まったく平気で過ごせたようです。
帰宅後病院に来てくれ、杉の皮で作ったメッセージカードに、あの子ならではの笑い顔と幸福・健康のストラップをおみやげに買ってきてくれました。本当に嬉しかったです。チームソングの「虹」も大のお気に入りとなったようで、妹といつも歌っており、私の涙顔にちなんで発唱してくれました。大勢のお子さん達に囲まれ準備段階から大変なお世話もありだったと思いますが、全ての団員の皆さんが感謝しておることと思います。子供の成長と気持ちの成長と嬉しかった旨、ご報告申し上げます。次回は娘も参加したいということも添えて、更なるご活躍を期待しております。本当にありがとうございました。

チームリーダーの感想

A-8 早川実佳さん
私は今回初めてチームリーダーとして参加させて頂いたのが最初は自分に子供たちをまとめる事が出来るのか不安でした。しかし、思っていた以上に子供たちはしっかりしていて逆に私が教わる事の方が多かったように思います。下船後、チームの子から手紙が届き「この船会ったばかりだけどすぐに会いたくなった」と書いてあり大変感動しました。(笑) また、私は小学生の時に団員として少年の船に参加しました。本当に楽しくてまた行きたいと毎年思っていたのですが、そう思えるのは青年会議所の方々をはじめ多くの方が子供たちの事を考えて苦勞を重ねて企画をして下さったり、奮闘を惜みずでミーティング/レールなどを下して下さったり……そういったおかげだという事に気付きました。本当に感謝の気持ち一杯です。今回経験した事をこれからの生活に活かしていきたいと思えます。そしてまた来年も乗船できたいいなと思えます。本当に楽しくて勉強になりました。有難うございました。

実行委員長挨拶

「2009はままつ少年の船」関係者の皆様、こんにちは。まずは「2009はままつ少年の船」事業において、多くの皆様にご協力頂きましたおかげで、無事終了する事ができました事に感謝申し上げます。
「2009はままつ少年の船」いかがでしたでしょうか？天候の影響でやむなく中止にした研修もありました。船舶内で休憩する方も例年より多かった事と思います。しかし、団員たちは逞しく、そしてチーム内で助け合いながら各研修を楽しんで受けている様子を見て、乗船した皆様には、今回の船のテーマである「笑顔でいる事の素晴らしさ」と「感謝の心を持つことの大切さ」について気付いて頂いた事と確信しております。
団員やチームリーダーだけではなく、運営スタッフ一同も、大きく成長する機会を与えて頂きました事に感謝いたします。最後に、「2009はままつ少年の船」を支えて下さった皆様、本当にありがとうございました！そして、この「2009はままつ少年の船」を経験した団員が、感謝の心と笑顔に溢れ行動し、活躍していく事を祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。
2009はままつ少年の船 実行委員長 中村 浩 之

～1日目～

悪天候のため、清水港からの出航となりましたが、多くの保護者が見守る中、子供たちは「ひび丸」に乗り込みました。団員、スタッフ合わせて600人乗せ、2009はままつ少年の船は航路である瀬戸内海へ向け出航しました。残念ながらテープ抜けは中止となりましたが、船内出航式、避難訓練に続き、チームフラッグを作る研修、瀬戸内海についてクイズやゲームを通して学ぶ研修が行われました。外洋に出る頃は船の揺れはピークになり、大人でも船酔いするほどでした。船酔いする団員も多く、子供達には早かつたかも知れませんが、自然の厳しさと同時に互いに励まし合い仲間の友情・大人への愛情を感じたことでしょう。



～2日目～

船も瀬戸内海に入り、揺れもなくなり天候も回復し、スポーツデッキにもようやく出ることが出来ました。昨日経験した子供達も朝から元気いっぱいです。午前中は夢をかなえるための研修などが行われました。その後、待ちに待ったデッキランチが行われました。きれいに並んだたくさん料理、仲間達と食べたこの頃は忘れないね！丁度そのとき……瀬戸大橋を通過する予定でしたが、午後は体を動かしたり、ゲームでチーム内外の友達と競い合ったり、友情を深め合う楽しい研修でした。夕食はテーブルマナー教室で、ナイフ、フォークの使い方を船のクルーから教わりました。残念ながら星屋教室は中止となりましたが、この1日は楽しい思い出となったようです。



事業報告『3月例会 入会式』

3月12日(木)19:00よりグランドホテル浜松にて入会式が行われました。10名の新しい仲間が浜松青年会議所の旗を拓きました。望月理事長より入会証書を授与された後、新会員を代表して高井修一君が力強い挨拶を行いました。続いて行われた、小田田之彦(社)日本青年会議所直前会領の「JCだからできること、JCでなければできないこと」～Jayceeとして、一経済人として～の講演では、多くのメンバー、新会員が活動における気持ちを新たにしました。



新会員募集

(社)浜松青年会議所では、2009年度の新入会員を募集しています。「明るい豊かな社会」の実現を目指す青年会議所運動の基本は、地域の産業を担う若年経済人が人的ネットワークを築き、さらには青年会議所の各種事業を通じて切磋琢磨し、新しい経済情勢のなかでも力強いリーダーシップを発揮できる「人材」を育てることにあります。「一人でも多くの、志を高く持つ仲間に出会いたい」と一念で会員拡大事業に取り組みます。

メンバー一同、共に夢を語り合える仲間として青年会議所の旗を掲げて頂けることをお待ちしております。

JC入会のメリット
「仕事が忙しくて時間が無い」と思っている方こそ入会によって得られるものは多いと言えます。社会人にとって時間のコントロールは、最も難しいものではありません。自分は時間の使い方が上手なのかを知り、さらに上手になるには簡単な方法があります。それは自分よりも上手な人に出会い、一緒に活動して学ぶことです。新たな自分の発見、よい影響を互いに与え合う人間関係、自分の仕事にフィードバックできる活動。そこにJCのよさがあります。

お問い合わせ先
(社)浜松青年会議所 会員拡大委員会
TEL:053-454-6721 FAX:053-455-3563
E-mail: room@hamamatsujc.or.jp



- 入会について
- 青年会議所の目的と意義に共鳴し、自発的な参加と情熱を持っていること
 - 浜松市及びその一円に居住する満20歳以上40歳未満の未婚者であること
 - 最低月1回開かれる例会と委員会に出席できること
 - 健全な社会人としての教養と教養のある方で正常な事業に従事していること

入会要項
<http://www.hamamatsujc.or.jp/>



事業報告『第24回わんぱく相撲浜松場所』

5月10日(日)9:00～ 遠州灘浜公園相撲場でわんぱく相撲浜松場所が開催されました。日本の国技である相撲を通じて勝負の厳しさや、礼儀、他人を思いやる心を育む事業です。晴天に恵まれた会場には多くのちびっ子力士と保護者の皆様がお越しになり、白熱した取組の連続でした。お昼ご飯はもちろん、ちゃんこ鍋でした。この日優勝した4年生から6年生までの男女各1名は、6月21日(日)舞阪場市内で行われるわんぱく相撲県大会に出場します。出場される皆さん頑張ってきてください。男子については勝ち上げれば全国大会へ出場することが出来ます。



事業報告『4月度公開例会』

4月9日(木)18:30～20:45 アクティシティ浜松研修交流センター音楽工房ホールにて4月度公開例会が行われました。

第一部では『世界で一番受けたい授業』と題して、講師に藤原和博氏をお招きしご講演頂きました。藤原氏は元リクルート社員で東京都内では義務教育初の民間校長として杉並区立和田中学校校長を務められ、現在東京大学大学院客員教授、橋本大阪府知事教育特別顧問をしていただきました。和田中学校時代に実践したいくつかの取組を紹介されました。

「よなおれ科」…週1時間、学校をオープンにして大人と子供が一緒に学べる場を作ったそうです。身近な題材を用いて社会の仕組みを学ぶのに、ロールプレイングという手法を取り入れたり、大人も選んだ授業にディスカッションをさせるのが特徴です。子供は普段、真面目に議論する機会はないがその積み重ねは個人の自尊感情の醸成や、今の社会に必要な情報収集力の向上につながるそうです。「地域本部」…学校の中に地域のボランティアの本部を作るという取組です。図書室の運営をボランティアにまかせることで、自然と生徒の相談役になったり好評も生まれるそうです。

「土曜寺子屋」…地域本部の取組の中の一つで教員になりたい大学生などが子供に教える取組です。大阪ではそれを大学も単位に認めているそうです。若い人、学校周辺にある塾の講師などを学校に呼んで数学が苦手な子を教えてもらったそうです。先生や親から子供といった縦の関係より、それ以外の斜めの関係の大人から学ぶということはより効果的であるそうです。学校の中における学習のサポートには新しいパワーをいかに学校に引き込むかが大事であり、今後は知識・技術・経験のある団体の世代を巻き込むことも有効です。若い力、地元中小企業経営者、私塾、大学講師までもを学校に巻き込んで地域ネットワーク型の学校経営という発想です。それらの取り組みも初めは少人数からスタートしており、始める前に議論を繰り返すことも大事ですが、先ず行動をおこし、そこから修正していけばいい、始めたことで想定外的好成绩も生まれたとのことです。他にも現在の教育では、正解をいち早く導き出すこれまでの情報処理力から、最速解や納得解といった自分や他者をも納得させる解を導き出す、自分の意見を修正、進化させる情報収集力というものを教える時代になっているそうです。どのように学校を核に地域社会を再生するか、再生すべきは教育ではなく、地域社会におけるコミュニケーションそのものであるというお話でした。

第二部では『地域の宝(人材)を創る』と題してパネラーに藤原氏、高木浜松市教育長、伊藤浜松市小中学校PTA連絡協議会会長、望月理事長、コーディネーター内山顧問によるパネルディスカッションが行われました。高木教育長の話では浜松も教員以外の方がボランティアとして学校に入るといった取組は既に行っているそうです。学校をオープンにすることに対する危機管理については、学校は閉ざして守るものではなく、地域の人の目で見守るというのがパネラーの共通した意見でした。



事業報告『2009はままつ歌劇団オーディション』

4月25日(土)Uホールにて 2009はままつ歌劇団オーディションが行われました。続く5月9日(土)にも同所にて4月のオーディションにご参加出来なかった方、二次募集でご応募頂いた方にご参加頂きました。

二回のオーディションで浜松市近郊に住む18歳から65歳までの男女21名が、演技・歌唱審査、面接に臨み、決って2009はままつ歌劇団の仲間となりました。望月理事長の熱い思いのこもった挨拶から始まったオーディションですが、総合プロデューサー杉山氏の提案で行われた体を動かすゲームなどで緊張もほぐれ、皆さんリラックスした状態でオーディションに臨むことができていました。

おとしやかに見える女性も、演技審査に入った途端、まるで人が変わったような演技をされたり、失礼な言い方もありませんが、ごく一般的に見える男性が素晴らしい歌声を披露されたりと審査する側としても驚きの連続で、とても貴重な経験させて頂く事ができました。

まだオーディションが終わったばかりです。これから本格的に2009はままつ歌劇団はスタートします。5月15日(金)の初稽古から本格的に稽古がスタートし、毎週火、金、土にUホールにて稽古を積み重ねていく事になります。10月24日(土)の公演に向け、2009はままつ歌劇団一丸となって素晴らしいものを作り上げ、浜松の魅力を発信できるように頑張っていきますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

夢ある浜松創造委員長 宮本 武

